

予備設計など担当 ラオス、2橋梁架替起工

ラオス交通公共事業省は3日、同国サバナケット県ピン郡で、国道9号線改修計画プロジェクトで架け替えを行うセカムカム橋とセナムアック橋の起工式を開いた。オリエンタルコンサルタンツグローバルが予備設計から実施設計、施工監理までを一貫して行っており、コントラクターは安藤ハザマ・JFEエンジニアリングJ.V。式典には

ブンチャン・シンタウオン交通公共事業省大臣、在ラオス日本大使館の引原毅特命全権大使を始め、多くの来賓が参列した。国道9号改修計画は、日本のODA（政府開発援助）無償資金協力によるもの。国道9号線はインドシナ半島を横断する東西経済回廊の一部であり、内陸国であるラオスの中南部を横断する形で、東側

米澤栄二オリコンサルグローバル社長（左）ら



のベトナム国境から西側第2メコン国際橋が位置するタイ国境までを接続する国際幹線

道路。国道9号線上には51橋の橋梁が存在しているが、多くは劣化が顕在化しており、プロジェクトでは劣化が進行した2橋梁を架け替える。

同国が抱える維持管理面の課題に配慮し、ライフサイクルコストを低減するため、新橋の形式は鋼・コンクリート合成床版橋で、同国初の耐候性鋼を採用した橋梁となる。